

保護者の皆様

県立横浜旭陵高等学校
校長 竹村 健二

令和7年度第1回「生徒による授業評価」集計結果について(ご報告)

仲秋の候、保護者の皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。日ごろより、本校の教育活動にご理解・ご協力をいただき、誠にありがとうございます。

さて、神奈川県では例年、授業改善の取組みに資するものとして年に2回「生徒による授業評価」を実施しておりますが、今年度の本校における第1回(前期)の実施結果がまとまりましたので、次のとおりご報告申し上げます。

1 アンケート設問

大項目	番号	小項目
授業の在り方について	1	毎時間の授業や単元(内容のまとまり)のはじめに学習のねらいを示したり、毎時間の授業や単元の学習のあとに学習したことを振り返ったりする機会がある。
	2	単元(内容のまとまり)の学習の中で、他者の考えを知り、自らの考えを広げ深める機会がある。 <u>※他者とは、他の生徒・教員等を言う。</u>
	3	単元(内容のまとまり)の学習の中で、課題について自分の考えをまとめたり、解決方法について考える場面がある。
学習の状況について	4	授業の中で「できるようになったこと」が増えたり「わからない所」に気づいたりしたことがありましたか。
	5	他者の考えを知ることにより、新たな考え方を知るなど、自らの考えを広げ深めることができた。 <u>※他者とは、他の生徒・教員等を言う。</u>
	6	授業で得た知識をもとに、自分の考えをまとめたり、課題の解決方法を考えたりすることができた。
	7	授業で学んだことをそれまでに学んだことと関連付けて理解することができた。
認知変容について	8	4月に授業が始まってから、「自分の考え方を変えることで、自分の周りの人や出来事に対する考え方や感じ方が良い方向に変わった」という経験をしましたか。
	9	昨年度(1年次は中学生の時)よりも、自分の考え方を変えることで、授業に前向きに取り組めるようになりましたか。

アンケートの設問は、県の共通の設定項目である上記の7項目に加えて、本校独自の設定項目である「認知変容について」における2つの項目が設定されています。その各項目に対して、「4かなり当てはまる」「3ほぼ当てはまる」「2あまり当てはまらない」「1ほとんど当てはまらない」の4段階で評価し、回答します。

2 調査対象者数

実施したアンケートの教科毎の対象者数は次のとおりです。

教科	国語	地歴・公民	数学	理科	体育	芸術	外国語	家庭	情報	国際	総合
人数(人)	535	567	273	334	392	216	316	90	61	3	276

3 調査結果についての分析

生徒の満足度や理解度は高い傾向にあり、授業内容に対する肯定的な評価が多く見られました。一方、いくつかの教科では、他者との対話や自己の考え方の変容、課題解決の過程に課題が見られました。これらの成果と課題は、生徒が授業を通じて知識や技能を身につけ、満足感を得ていることを示すとともに、対話や深い理解を促進することが今後の重要な課題であることを示唆していると思われます。

4 今後の授業改善に向けて

対話や自己表現の機会不足、主体的な学びの促進が課題として挙げられます。今後は、対話的な学びやグループ活動を積極的に取り入れ、生徒の意見交換や考え方の共有を促進するとともに、自己の考えや価値観を深める活動や振り返りの時間を設け、主体的な学びを支援します。さらに、授業の目的やテーマを明確に伝え、課題解決や意見交換の場を充実させることで、生徒の関心と参加意欲を高めていきます。

問合せ先
副校長 小 原
電話 045(953)1005

5 集計結果

教科	評価	設問1	設問2	設問3	設問4	設問5	設問6	設問7	設問8	設問9
国語	4	40.0%	41.9%	42.6%	42.6%	38.3%	37.4%	40.6%	36.8%	40.0%
	3	49.3%	47.9%	50.1%	48.4%	50.1%	51.8%	49.3%	49.7%	48.8%
	2	8.8%	8.6%	6.0%	7.3%	10.1%	9.5%	8.2%	11.0%	8.6%
	1	1.9%	1.7%	1.3%	1.7%	1.5%	1.3%	1.9%	2.4%	2.6%
地歴・公民	4	43.7%	41.1%	40.0%	42.9%	39.2%	42.2%	42.3%	38.8%	41.6%
	3	49.6%	50.4%	52.0%	49.7%	50.3%	49.6%	49.0%	50.4%	49.7%
	2	5.5%	6.9%	6.9%	6.7%	8.8%	7.4%	7.4%	8.3%	6.5%
	1	1.2%	1.6%	1.1%	0.7%	1.8%	0.9%	1.2%	2.5%	2.1%
数学	4	41.0%	38.1%	45.8%	53.1%	39.6%	43.2%	46.9%	39.6%	42.1%
	3	48.7%	51.3%	46.2%	44.0%	48.7%	50.2%	46.9%	48.7%	48.4%
	2	8.4%	8.8%	6.6%	2.2%	9.5%	5.9%	5.5%	9.9%	7.3%
	1	1.8%	1.8%	1.5%	0.7%	2.2%	0.7%	0.7%	1.8%	2.2%
理科	4	52.7%	47.0%	46.7%	48.8%	46.7%	45.8%	50.3%	46.4%	47.9%
	3	43.4%	47.6%	48.5%	48.5%	48.2%	50.0%	45.5%	46.7%	47.0%
	2	3.9%	5.1%	4.5%	2.7%	4.5%	3.6%	3.9%	5.4%	3.9%
	1	0.0%	0.3%	0.3%	0.0%	0.6%	0.6%	0.3%	1.5%	1.2%
保健・体育	4	51.8%	42.9%	45.4%	48.7%	39.3%	44.6%	43.1%	42.3%	45.7%
	3	42.1%	46.7%	48.0%	44.1%	52.0%	47.7%	50.3%	47.7%	45.9%
	2	5.6%	8.7%	5.9%	6.6%	7.4%	7.1%	6.1%	8.2%	7.4%
	1	0.5%	1.8%	0.8%	0.5%	1.3%	0.5%	0.5%	1.8%	1.0%
芸術	4	43.5%	35.2%	42.6%	50.9%	39.4%	41.2%	42.1%	40.7%	42.1%
	3	49.1%	49.5%	46.8%	43.1%	47.2%	48.1%	49.1%	47.7%	51.9%
	2	5.6%	12.5%	9.3%	5.6%	10.6%	9.3%	8.3%	9.7%	5.6%
	1	1.9%	2.8%	1.4%	0.5%	2.8%	1.4%	0.5%	1.9%	0.5%
外国語	4	37.7%	44.3%	37.3%	41.1%	37.0%	38.6%	37.3%	36.1%	38.6%
	3	48.7%	46.8%	51.6%	50.0%	49.1%	48.7%	52.2%	49.1%	50.6%
	2	11.1%	6.6%	8.2%	7.0%	11.4%	10.1%	7.6%	10.8%	7.0%
	1	2.5%	2.2%	2.8%	1.9%	2.5%	2.5%	2.8%	4.1%	3.8%
家庭	4	34.4%	38.9%	38.9%	45.6%	34.4%	37.8%	40.0%	35.6%	36.7%
	3	57.8%	46.7%	48.9%	50.0%	53.3%	56.7%	52.2%	51.1%	54.4%
	2	3.3%	11.1%	7.8%	2.2%	10.0%	3.3%	4.4%	8.9%	5.6%
	1	4.4%	3.3%	4.4%	2.2%	2.2%	2.2%	3.3%	4.4%	3.3%
情報	4	37.7%	37.7%	39.3%	55.7%	26.2%	41.0%	44.3%	34.4%	41.0%
	3	47.5%	49.2%	47.5%	41.0%	60.7%	47.5%	49.2%	50.8%	49.2%
	2	13.1%	9.8%	8.2%	3.3%	9.8%	9.8%	6.6%	11.5%	3.3%
	1	1.6%	3.3%	4.9%	0.0%	3.3%	1.6%	0.0%	3.3%	6.6%
国際	4	100.0%	66.7%	100.0%	33.3%	66.7%	66.7%	66.7%	100.0%	66.7%
	3	0.0%	33.3%	0.0%	66.7%	33.3%	33.3%	33.3%	0.0%	33.3%
	2	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	1	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
キャリア	4	40.6%	37.3%	42.4%	38.8%	37.0%	40.2%	37.7%	38.8%	40.6%
	3	51.1%	52.2%	47.8%	48.6%	52.9%	47.5%	51.4%	50.0%	52.2%
	2	6.2%	9.1%	8.0%	11.6%	9.1%	10.9%	9.1%	9.4%	6.5%
	1	2.2%	1.4%	1.8%	1.1%	1.1%	1.4%	1.8%	1.8%	0.7%
全体平均	4	43.6%	41.3%	42.5%	45.4%	39.1%	41.4%	42.4%	39.5%	42.1%
	3	48.0%	48.8%	49.2%	47.4%	50.2%	49.6%	49.3%	49.0%	49.2%
	2	6.9%	8.1%	6.8%	6.1%	8.9%	7.8%	6.9%	9.1%	6.7%
	1	1.5%	1.7%	1.5%	0.9%	1.7%	1.2%	1.3%	2.3%	2.0%

6 教科での分析と改善に向けて

教科	授業評価の結果から読み取れる課題など	今後の授業改善に向けて
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・（番号２）「他者の考えを知り～」の項目がやや低い。 ・（番号９）「昨年度よりも～授業に前向きに取り組める～」の項目がやや低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○（番号２）の項目がやや低い の改善 <ul style="list-style-type: none"> ・良い答えを共有する。 ・黒板に答えを書く。 ・ロイロノートで答えを共有する。 ・演習前に、問題文のテーマについて話し合ってから導入とする。 ○（番号９）の項目がやや低い の改善 <ul style="list-style-type: none"> ・毎時のねらい、振り返りをしっかり確認し、達成感、進歩している実感を伝える。 ・良い点をしっかり褒めることを心がける。 ・授業内容のポイント、有用性を伝える。 ○全体として <ul style="list-style-type: none"> ・上の改善を、義務的にするのは少し違うと思う。授業の組み立てのなかで、よりよい授業を目指して取り入れるべき。
地理・歴史・公民	<ul style="list-style-type: none"> ・すべての科目および項目で、生徒からの評価は４や３に集中しており、おおむね高い評価を得られた。 ・学校設定科目である郷土史かながわと再履修科目である公共以外は１の評価があった。特に他者との対話的な学びが評価につながる番号２や５の項目、認知変容に関する番号８や９の項目が、相対的に低い評価だった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本校には地歴公民科を苦手とする生徒が多いため、学習に困難を抱える生徒への適切な支援をさらに充実させていく。 ・対話的な学びの機会を増やしたり、生徒が認知の変容を実感できるような学習活動を多く取り入れたりすることなどを、教科担当全体で意識しながら、授業づくりを行っていく。
数学	<ul style="list-style-type: none"> ・評価４「大変よく当てはまる」と評価３「よく当てはまる」の合計が８０％から９０％を超えており、多くの生徒が授業に対して肯定的な評価をしていることがわかる。 ・一方で、（番号８）と（番号９）の評価が他の質問と比べてやや低いという課題が見られる。 ・これらの結果から、生徒は授業を通して「できるようになった」という感覚（番号４）や、他者の考えを知ること（番号５）ができている一方で、学んだことが自分の価値観や考え方を根本から変える経験につながっている生徒はまだ少ないと考えられる。また、それが授業への主体的な姿勢にまで結びついていない生徒も限られている可能性がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○数学と実社会、個人的な経験を結びつける機会を増やす ・数学が日常生活や社会の様々な場面でどのように使われているかを具体的に示す。 ・単元の導入やまとめで、「この単元で学んだ考え方が、どのような場面で役に立ちそうか？」といった問いかけを行い、生徒に考える時間を与える。 ○「なぜそう考えるのか？」を掘り下げる対話を促す ・答えを導き出す過程だけでなく、「どうしてその式を立てたのか？」「その考えに至った理由は？」といった、思考のプロセスに焦点を当てた質問を投げかける。 ・ペアやグループで課題に取り組む際、「どうしてそう考えたか」を互いに説明し合う時間を設け、他者の思考プロセスを知り、自分の考えと比較することで、視野を広げる機会を増やす。
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・すべての項目において、生徒からの評価はおおむね高かった。特に、必修修科目に比べ、選択科目や学校設定科目の方が、評価が高い傾向が見られた。 ・評価項目としては、他者との対話が求められる番号２，５，６，８の項目の評価が相対的に低かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・必修修科目で、より一層学習が難しい生徒への支援を行っていくことが求められるのではないかと考えられる。 ・また、（番号８）の評価項目にある「自分の考え方を考えることで、自分の周りの人や出来事に対する考え方や感じ方が良い方向に変わった」という視点を、より授業者が意識し、デザインすることが求められる。

外国語	<ul style="list-style-type: none"> ・必須科目であるため、(番号4)は高い評価を得ることが必要。 ・(番号7)は、教科書で扱われる題材にもよる。 ・番号2～6は、授業中の発表活動で、他者の発表を聞くこと等を通じて伸ばすことが可能である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・(番号4)を伸ばすことの方が、むしろ生徒の自己肯定感向上に繋がると考える。そのためには、授業中に生徒ができるようになった問題を、定期試験や課題試験等にあえて出題し、より実感させることも必要だと考える。 ・(番号7)を伸ばしたいのであれば、生徒が学校内外で何を勉強しているのかを広く理解することが必要だと考える。 ・番号2～6は、授業中の発表活動で、他者の発表を聞くこと等を通じて伸ばすことが可能であるが、生徒各々によっては、他者の発表内容が理解できず、「他者の考えを知る」まで至らないケースが考えられる。それを改善するには、発表原稿等に用いる語句を、授業内で扱ったばかりの内容に限定するなどの工夫が必要である。
家庭	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒同士で話し合う機会が少なかった。 ・それぞれの考えをロイロノートで提出させた後の共有がうまくいかなかった。 ・課題を見つけた後、解決策まで結び付ける前に授業が終わってしまうことがあった。 ・その日のテーマが明確に伝わっていないことがあった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・単元の中で大切な場面では、お互いに話し合う機会を設ける。 ・ロイロノートに出てきた意見を共有する。 ・作品作りをした後の振り返りで、自分の課題を明確にし、次回に生かせるようにする。 ・毎回のテーマを明確にし、時間内に内容のまとまりを完結する。 ・ポイントとなる部分において、生徒同士が話し合ったり意見を共有したりする時間を設ける。
保健体育	<p>毎時間に各担当が振り返りシートを用いて授業の振り返りを行っている。その為「授業の在り方について」(番号1)に対しては高い評価になっていると考えられた。</p> <p>解決方法に関しては、分かっているが解決しない(動き方が分からない)等の課題が残る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・気候の変動に留意しながら、安全に配慮しておこなっていく。 ・課題を克服できるように引き続き振り返りシート等で課題解決を行っていく。
芸術	<ul style="list-style-type: none"> ・授業評価の設問が、知識や理解度を問う内容が多い中で、芸術科は実技中心の科目でありながら、生徒の満足度は高いと評価できる。 ・「実用の書」について、やや値が低いが、書道になじみのない生徒が多く選択しているという事情が関連していると思われる。 ・他の科目においても、2年次で芸術科目を選択しなかった生徒が卒業年次になって「Ⅱ」を選択したり、音楽や美術の苦手な生徒が「器楽」や「クラフトデザイン」を選択したり、ということが一部にあることが読み取れる。 ・他者の考えを知る機会が、授業の中で少ないと感じている生徒がやや多いが、これは例年も見られる傾向である。この調査の時期では、大きな課題の振り返りや授業内の作品や演奏を鑑賞する機会が少なかったことも影響しているのではないかと。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業内容や指導方法について、大きく変更する必要はないと考える。ただ、他の生徒の作品を見たり、演奏などを聞いたりすることが、貴重な学びになっていることを自覚できていない生徒がいるようなので、授業の中で視野を広く持って実技や鑑賞に取り組むように、声掛けをしていく必要がある。前期の課題の振り返りなどで、その機会を設定できれば実行していきたい。 ・本校では芸術科目の基礎的な段階の学習が不足している生徒が多く、そのことが授業理解や達成度に影響している面がある。これまでも基礎学習に時間をさいてきたが、今後ともていねいな指導を心がけたい。
情報	<ul style="list-style-type: none"> ・(番号5)の評価が低くなっている。授業の難易度が上がり、内容を聞き取るだけで手一杯になっていて、自らの考えを深めるところまで至っていないと考えられる。 ・(番号8)の評価が低くなっている。新しい知識を習得していく中で、自分の考えを変えるということはなかなか難しいと考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒に対して、授業の内容を聞いて、考えを深められるような工夫をする。また、後期の他者にわかりやすく伝えるための表現活動の学習を通して、自らの考えを広げられるようにする。 ・前期に獲得した知識をもとに、自分の考えを変えるような経験ができるよう工夫していく。